

## 時のしるしを見る

(マタイ16・1〜4)

## 一、主は怒っておられた？

1節をご覧ください。〈パリサイ人やサドカイ人たちがみそばに寄って来て、イエスをためそうとして、天からのしるしを見せてくださいと頼んだ。〉とあります。前後関係より、この時イエスはおひとりだったようです。そこに、パリサイ人やサドカイ人たちが近寄って来ました。実は、この節にはたくさんの情報が詰まっています。といいますのは、パリサイ人とサドカイ人が一緒に行動することは、ふつうならあり得ない話だからです。彼らは、ふだんは仲たがいをしていました。そういう者たちが、あることのために結託しました。イエスを試すためです。ここに登場する「試す(テライゾー)」という言葉は、マタイの福音書では特別な意味で用いられています。といいますのは、荒野で、悪魔がイエスを「試みた」箇所が使われている言葉だからです。4章3節に、〈すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパンになるように命じなさい。」と書かれています。その後、この言葉は現れません。そして、16章1節に、〈パリサイ人やサドカイ人たちがみそばに寄って来て、イエスをためそうとして、〉と書かれています。ということは、パリサイ人とサドカイ人の

人々の行動が、実は悪魔の行為、すなわち神に敵対する行為であったとマタイが語っている、読むことができます。そういうわけで、ここは神の子イエスと悪魔との霊的な対決であると言えます。それゆえに、私にはこの時の主イエスの表情が厳しく、怒っておられるように見えます。さらに、4節後半の

〈そう言つて、イエスは彼らを残して去つて行かれた。〉に、パリサイ人やサドカイ人たちを見捨てて去つて行かれた、神の子イエスの御姿を見ます。

## 二、時のしるしは何か

パリサイ人やサドカイ人たちは、言い換えるなら「神の敵対者たち」は、イエスに「あなたがメシア(キリスト)である」と主張するならば、我々が納得できるように証明してほしい」という意味で、「しるし」を要求しました。それに対して、主イエスはおっしゃいました。2節、3節です。〈しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがた言うし、朝には、『朝焼けでどんよりしているから、きょうは荒れ模様だ』と言う。そんなによく、空模様の見分け方を知つていながら、なぜ時のしるしを見分けることができないのですか。〉と。

主イエスは「時のしるしはだれでも見分けることができる」とおっしゃいましたが、「時のしるし」とは何なので

しょうか。前後関係から、次のように受け取ることができます。イエスは4節前半でおっしゃいました。〈悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。しかし、ヨナのしるしのほかに、しるしは与えられません。〉と。

「ヨナのしるし」とは何なのでしょうか。こういうことかと思えます。イエスの時代、ユダヤ人はローマ帝国の支配下にありました。イエスが生まれられた時にユダヤの王として君臨していたのは、ローマに取り入つて、ユダヤの支配権を得たイドマヤ人(エドム人)エサウの子孫)のヘロデ大王でした。ヘロデ大王の死後、ユダヤとサマリア、ガリラヤを治めたのはヘロデの息子たちでした。そのような状況はユダヤ人とつて屈辱的です。ローマの支配下であり、且つ異邦人のヘロデ一族がローマに取り入つて支配権を得、自分たちの上にいる。それは、ヨナが三日三晩魚の腹の中にいる状況に重なります。主イエスはこの状態を、「時のしるしである」と語られたのだと思われれます。すなわち、人間的には絶望の状態であつて、主を求める以外に救いがないという状況です。そういう八方塞がりの状況から主を求めるなら、わたしが分かる(イエスに神を見いだす)と、語られたのだと思われれます。私たちに当てはめるなら、万策が尽きて、神にのみ頼る状況です。

## 三、「見える」と思ふ罪

信仰とは不思議なものです。自分のやり方が正しいと思つているうちは、神、すなわち父・子・聖霊なる神に出会うことはできません。こういうわけで、パリサイ人やサドカイ人たちは、イエスに神を見いだすことができませんでした。主イエスは、ヨハネの福音書9章41節で語っておられます。〈新共同訳〉「見えなかつたのであれば、罪はなかつたであろう。しかし、今、『見える』とあなたたちは言つている。だから、あなたたちの罪は残る。」と。「私は知っている」という者は締め出され、「罪人の私を憐れんでください」と心底より願う者は、神と出会います。不思議です。主イエスは、「私たちは見える」と豪語していたパリサイ人やサドカイ人たちを、すなわち神への「敵対者」を見捨てて立ち去られました。

さて、パリサイ人やサドカイ人の傾向は私共の中にもあります。たとえば「教会で、もっと奇跡が起こつたら、人々は信じるのに」と思ふことです。私たちは、病気の人と接すればいやしのために祈ります。問題を抱えている方のためには、問題の解決を祈ります。ですが、たいせつなのは、神が独り子であるイエス・キリストを救い主として世に遣わされたことです。それを信じるのが神の業です。